

大田区職員9条の会ニュース

第90号 2014年9月9日 編集 大田区職員9条の会事務局
大田区職員労働組合気付

沖縄の米軍基地は誰のため？

沖縄県議会「新基地建設工事の即時中止」を求める意見書採択

今、沖縄の名護市辺野古に、米軍普天間基地の移転先として基地が作られようとしています。連日、市民の反対の声を無視して工事が進められています。

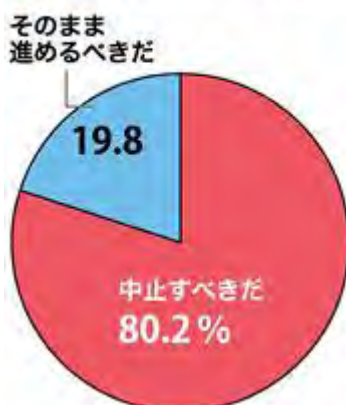
これに対して沖縄県議会は9月3日、臨時会を開き米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設に向けた海底ボーリング調査に抗議し、新基地建設工事の即時中止を求める意見書を賛成26、反対14の賛成多数で可決しました。意見書は、安倍政権が海底調査を開始したことについて「民主主義を蹂躪（じゅうりん）し、県民の尊厳を踏みにじるものだ。到底容認できるものではない。怒りを込めてこの暴挙を糾弾する。」と強く批判しています。

県民の80%以上が「工事中止すべき」と回答

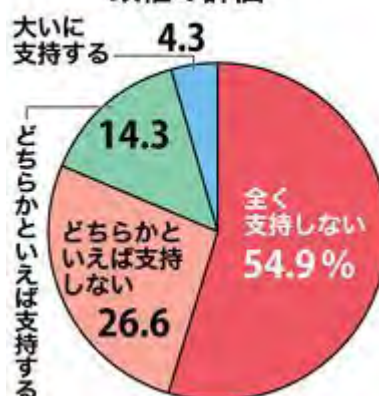
8月23・24の両日、琉球新報社と沖縄テレビ放送（OTV）が合同で行った『政府が米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設に向けた海底ボーリング調査を開始したこと』に関する県内電話世論調査では「移設は中止するべきだ」との回答が80.2%に上り、「そのまま進めるべきだ」の19.8%を大きく上回っています。安倍政権の姿勢を支持するとの回答は18.6%にとどまり、不支持が81.5%に達しています。

普天間問題の解決策では『県外・国外移設や無条件閉鎖・撤去を求める意見』の合計が79.7%でした。辺野古移設の支持は10.0%、辺野古以外の県内移設は4.6%にとどまっています。

問1 移設作業の今後



問2 調査を開始した政権の評価



沖縄の経済は基地に依存していない

本土に住む私たちは、「でも、沖縄の経済は基地に依存しているのではないか？」「基地がなくなったら困るのではないか？」と思いがちですが、沖縄県のホームページではこうした疑問に次のように回答しています。

(問) 沖縄県の経済は米軍基地経済に大きく依存しているのではないですか。

(答)

○基地経済への依存度は、昭和47年の復帰直後の15.5%から平成21年度には5.2%と大幅に低下しています。

○米軍基地の返還が進展すれば、効果的な跡地利用による経済発展により、基地経済への依存度はさらに低下するものと考えています。

(解説)

- 本県経済は、米国施政権下の戦後復興や高度経済成長下における我が国の経済発展の過程から切り離されていたことなどもあり、総じて第二次産業が振るわず、基地依存の消費型経済の構造が形成されました。
- 復帰後の沖縄経済については、3次の沖縄振興開発計画では社会資本の整備を中心とした格差是正が、その後の沖縄振興計画においては民間主導の自立型経済の構築が、基本方向の一つとして位置づけられ、道路や港湾、空港などの社会資本の整備に加え、就業者数の増加や観光、情報通信産業等の成長など、着実に発展してきました。
- その結果、基地関連収入（軍用地料、軍雇用者所得、米軍等への財・サービスの提供）の県経済に占める割合は、復帰直後である昭和47年の15.5%から平成21年度は、5.2%となり、その比重は大幅に低下しています。
- また、過重な米軍基地の存在は、道路整備や計画的な都市づくり、産業用地の確保等、地域の振興開発を図る上で大きな制約となっており、今後、米軍再編による大幅な兵力削減や相当規模の基地返還が進めば、基地経済への依存度はさらに低下していくものと考えています。

基地がなくなれば地域経済が発展するという事は、今の沖縄では当たり前の考えになっています。ですから、普天間基地の即時閉鎖や県外移設・辺野古新基地建設反対の声は、いわゆる革新陣営だけではなく、経営者や保守的な人たちも含めたオール沖縄の声になっています。

沖縄の人たちの声に耳を傾けない政府に対する批判の声や動きは日増しに高まっています。こうした沖縄の人たちに連帯していきましょう。



東京反核平和 キセル マラソン



正方形だった。自分の体形を真上から見ると横長の長方形だと思っていた。しかしビルのガラスに映った走る姿は、思っていた以上の厚みがあった。

7月26日、第19回東京反核平和マラソン南コースは午前10時大田区役所前をスタートした。今年も大田区職労の方々が水、スポーツドリンク、バナナなどを用意してくれていた。ここに大田区職員9条の会のメンバーは今年も無かった。気温は32度。

好きな平和とランが合体したこの企画。できるだけ毎年参加している。これは競争ではなく、反核・平和をアピールしながらみんなと一緒に歩道を走る。が、今年も完走する自信がない。約17kmのコースだが昨年は12km地点でリタイア。この失敗を教訓にし、考えた。スタートから5kmとゴール手前4kmだけ走り、途中の8kmは伴走車に乗ることにした。こうして昨年できなかったみんなと手をつないで代々木公園でのゴールの感動を、今年は24名の仲間と一緒に味わった。

渋谷区役所前の温度計は36度を表示。



調布地域福祉課のナウイヤングなイケメン